

# 古民家新聞

匠を感じる住まい

vol. 36

木枯らしの冷たさが身に染みる頃となりました、皆様いかがお過ごしでしょうか。三重県古民家再生協会では、去る10月に伝統耐震診断を11月に床下診断を、松阪市の水本様邸にて実施しました。その様子が中日新聞に掲載されましたのでご紹介いたします。

床下診断では床下の目視に加えて温度・湿度の測定も行います。ちなみにヤマトシロアリは6℃、イエシロアリは10℃で活動を開始します。年に数回は床下の目視でセルフチェックすることをおすすめします。

## 古民家の耐震診断

### 松阪で鑑定士調査

古民家の保全に取り組み建築士がつくる県古民家再生協会(四日市市)は八日、松阪市小阿坂町の民家で専門の鑑定士による耐震診断調査会を開いた。

家屋状態を調べ、鑑定する古民家鑑定士十人が水本雅久さん(前)の母屋を調査。機器で地盤などの振動波を測り免震性を判定。屋根、外壁や柱の傾き具合も調べた。後日、専門の鑑定士による耐震診断調査会を開いた。



古民家の天井の状態を調べる鑑定士ら＝松阪市小阿坂町で

建築物は一九三六年築の木造二階建て。七年前から空き家になっており、水本さん夫婦が住居に再活用しようと依頼した。

鑑定士から「よく手入れされており十分居住できる」と報告された水本さんは、「耐震性が心配だった。より良い結果と聞いて良かった」と話した。

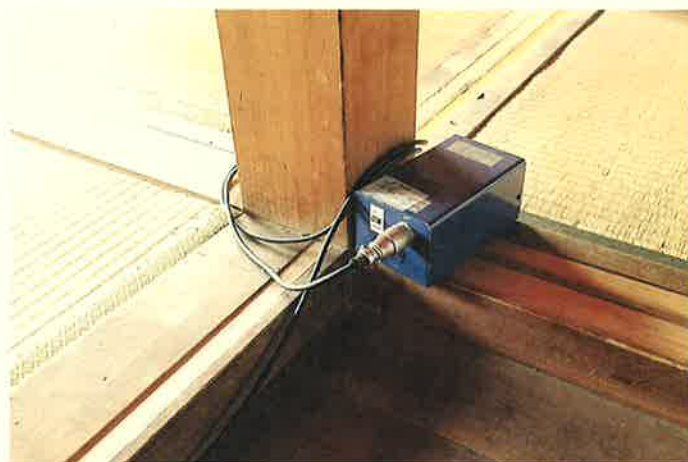
建築士の堤久夫理事(長生)は「調査が伝統工法の保存や古民家活用につながってほしい」と話した。

(作山哲平)

中日新聞2017年10月12日の記事。



床下写真。腐朽・蟻害などが見られず健全。



伝統耐震診断の屋内に設置した微振動測定器。建物の常時の微振動と、屋外に設置した地盤の常時の微振動を同時に測定。そのデータから耐震診断をします。



診断を行った古民家。築54年。



伝統診断の計測データを解説する理事の堤。

今年もたくさんの方に支えられて活動を展開することができました。感謝いたします。寒さ厳しい折ですがご自愛頂き、良い年末をお過ごしください。

お問い合わせは

一般社団法人 三重県古民家再生協会

〒510-8016 三重県四日市市富州原町10-6 TEL059-366-3833 FAX059-361-1717 mail info@tap-s.com

kominka-mie.org